

一〇代のための新書の可能性



はじめに

私は岩波ジュニア新書編集部に在籍してジュニア新書の編集に長く携わってきました。そして二〇一〇年から二〇二一年までおよそ一〇年間、編集長を務めました。本稿では、その経験をもとに、ジュニア新書を中心に一〇代の教養書の可能性について論じてみたいと思います。

●岩波ジュニア新書とは

一〇代を対象にした新書には「岩波ジュニア新書」と「ちくまプリマー新書」があります。また、判型は異なりますが、若い世代向けの教養書シリーズに「よりみちパシオン!セ」「14歳の世渡り術」などの叢書があります。

岩波ジュニア新書が創刊されたのは一九七九年です。高校進学率が九〇%を超え、大学入試の共通一次試験が始まった頃でした。自分の能力が偏差値という数字で評価され、大人が敷いたレールの上を歩むことが求められ、そこに息

苦しさを感じる子どもたちが多くなっていった時期です。

偏差値競争に明け暮れる学校生活に反発を覚えた生徒たちによる「校内暴力」が大きな社会問題にもなりました。高度成長の波に乗り切れず、経済的・社会的に困難を抱える家庭に育つ子どもも多くなりました。

そのような社会情勢のなか、岩波ジュニア新書は、学校の成績だけがその人の価値を決めるものではないこと、人生は可能性に満ちているということを伝える「学び」の本として発刊されました。

現在も全てのジュニア新書の巻末には創刊の辞「岩波ジュニア新書発足に際して」が掲載されています。そこには「現在の学校で生じているささいな『学力』の差、あるいは家庭環境などによる条件の違いにとらわれて、自分の将来を見限ったりはしないしてほしいと思います。個々人の能力とか才能は、いっどこで開花するか計り知れないものがありますし、努力と鍛錬の積み重ねの上にこそ切り開かれ

山本 慎一

